

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	スポーツ・芸術探究コース			訪問国	ニュージーランド
学校名	静岡聖光学院高等学校	氏名	崎山湊太郎	学年	1 年

私は、ラグビーが大好きです。ラグビーは、プレーするまでに色々な事を考えなくてはなりません。そこから、自分の特徴、性格を知れると思います。そんなラグビーをもっと多くの人に知ってもらいたいから「ラグビーを通して静岡の人を幸せ・楽しくするためには？」というテーマで探究活動を行っています。そして、この探究テーマを解決するには、「静岡をラグビー大国」にする必要があると考えています。そこで、世界最高峰のラグビー大国ニュージーランドへ留学し、「なんでニュージーランドでラグビーが広まったのか？」を調査しました。

私は、ニュージーランド・オークランドにあるKelston Boy's High School に昨年の7月28日から9月29日の2ヶ月間留学しました。

私が留学中に行った、探究活動は2つあります。1つ目は、現地の方へのインタビュー活動です。この活動は、「ニュージーランドにとってラグビーがどんな存在か？」を調査しました。この活動ではニュージーランドがなぜラグビーが好きかを問う事で、新たなラグビーの魅力が見つかると思ったからです。実際に、インタビュー活動では、ラグビーはあって当たり前の存在という意見が大半でした。2つ目に行った探究活動は、選手としてニュージーランドラグビーを体験する活動です。この活動は、ラグビー王国ニュージーランドのラグビーを体験する事で、自分自身のラグビーのLevel upをはかりました。この活動を行った理由は、自分自身のラグビーのキャリアがなければ、「ラグビー大国静岡を作る」という思いが多くの人には伝わらないと考えたからです。

この2つの探究活動から私は、「なんでニュージーランドでラグビーが広まったか？」という問いに対して、「ニュージーランドラグビーはニュージーランド文化に欠かせないものだから」という答えを得ました。ニュージーランドには、元々先住民族マオリ族が闘争心を表すハカを踊る文化があります。その闘争心とラグビーがマッチした事で、ラグビーはニュージーランド文化に欠かせない存在になりました。



そんな留学での探究成果を得た私でしたが、私の留学が順風満帆なものではありませんでした。私は、留学渡航3日前までラグビーの大会に出場していました。しかし、大会最終日に怪我し、1ヶ月間ラグビーができない状況でニュージーランドに行く事になりました。

その私は、2ヶ月間異国地で過ごす事の不安・ラグビーができないと言う悔しい気持ちで一杯でした。でも、自分がニュージーランドに滞在できる期間はたったの2ヶ月しかないと思い、「目の前の事を一生懸命やろう」と決めました。まず、8月のラグビーができない期間はインタビュー活動に専念しました。そこから、現地の人と会話する事で、留学を頑張ろうと思うようになりました。そして、ラグビーができるようになった9月から、チームメイトとラグビーを通して会話できる楽しさ、ラグビーができる楽しさで留学がとても楽しくなりました。



この経験から、留学を通して精神的成長として、「目の前の事を一生懸命やる」事の大切さを知る事ができました。

私は、今後ニュージーランドでの探究活動で得た「ニュージーランドラグビーはニュージーランド文化の一部になっていた」ことから、「静岡の問題・文化」がラグビーを通して解決・発展できれば、必ずラグビーは広まって行くと考えました。そこで、静岡県唯一のプロラグビーチーム静岡ブルーレヴズ対リコーブラックラムズ東京の試合時に、「人々の披露の場」と「ラグビー観戦」という企画を開催します。この企画は、静岡市の第2スポーツ基本計画の中に、部活動の発表の場が少ないと言う意見がありました。なので、ラグビーの試合時に部活の披露の場を設けます。そして、披露をしてくれた人々にもラグビーを見てもらいます。この活動をする事で、ラグビーを知らない人にラグビーを知ってもらい、「ラグビー大国静岡」に少しでも近づくことができると考えています。



このふじのくにグローバル人材育成事業で、私は、自分の新たな目標「ラグビー大国静岡を作る」という明確な物を得る事ができました。また、自分自身の今後大切にしたいという精神に出会う事ができました。それは、「目の前の事を一生懸命にやる」「決断しろ、プロセスは後」この精神はふじのくにグローバル人材育成事業を経験したからこそ出会えたものだと思います。

